

NGOトーク  
理事が聞く

# 「より幸福度の高いまち・垂井」 をめざして

(特)泉京・垂井 事務局長 榎本 淳さん &  
(特)名古屋NGOセンター 理事 竹内 ゆみ子

## 垂井町とは

**竹内** たるいちよう さんぐりあの読者の方には垂井町のことから説明が必要ですね。

**榎本** 垂井町は岐阜県の西部に位置する人口28,000人の小さな町です。田園風景が残る自然豊かな町ですが、中山道垂井宿や南宮大社、竹中半兵衛の陣屋跡などが残る歴史のある町でもあります。JR東海道線の大垣と米原の間に位置しており、名古屋駅から快速で48分と交通の便も豊かです。

泉京・垂井は、住民誰もが垂井町のまちづくりに自ら参画し、行政、事業者、企業などと協働してまちづくりに関する事業を行い、「より幸福度の高いまち・垂井」を実現することをめざして、2005年に設立しました。垂井町は町の至るところに湧水や井戸があり、地元の方たちが今も大事に使っています。そのため垂井町の良さを表現するために「泉京」を団体名に含めました。

**竹内** 国際協力には直接かかわっていないのに、名古屋NGOセンターに加盟していただいております。

**榎本** フェアトレードには以前から取り組んでいますし、最近のTPPに関する意見交換会などを通して共通の課題が見えてきて、一緒になって活動することの意義を強く感じたため加盟しました。今ではスタッフや会員さんにも名古屋NGOセンター出身の方が多くいます。

**竹内** 榎本さんご自身はどのような思いで泉京・垂井にかかわったのですか。

**榎本** 私は地元出身ではありませんが、岐阜大学の大学院でまちづくりや環境に

ついて研究をしていました。2006年からボランティアという立場に関わり始めましたが、2007年にマンボについて調べるために後輩と垂井町をたびたび訪れ始めたのがきっかけで、泉京・垂井に深く関わるようになりました。その後活動の主旨に共感して2009年に就職、2010年からは事務局長をしています。

## 今も残るマンボ

**竹内** マンボとはどのようなものですか。

**榎本** 人がわずかに入れるような大きさのトンネルを掘って、地下水を集める横井戸で江戸時代から農業用水として利用されてきました。この地方から三重県鈴鹿地方にかけて多く見られます。地下水をくみ上げることができない地域では貴重な施設でかつては垂井町内に100本以上あったのですが、近代的な農業用水が完備されたため、現在ではわずかしかなかったり残っていません。

**竹内** 横井戸はイランなどにあるカナートが有名ですね。

**榎本** 形状はカナートに似ていますが、カナートは水の蒸発を防ぐためのもので、浸透する地下水を集めてくるマンボとは少し異なっています。

**竹内** 泉京・垂井ではマンボについてどのような取り組みをなさっているのですか。

**榎本** 産業遺産としてぜひ残したいという思いから、昔の方のお話を伺うなどして資料をまとめ、それらを使って実際に歩いてマンボを見るツアーを定期的に行っています。農業や土木に詳しい方

にも好評です。

## イベントで伝えたいもの

**竹内** イベントも多く行っていますね。

**榎本** 毎年春に「フェアトレード日垂井」を行い、今年が4回目になりました。町内の運動公園で行う、来場者5,000人の岐阜県での最大のフェアトレードイベントです。物販ブースや飲食ブースには約60団体が出店して、ステージではファッションショーや原田さとみさんと垂井町長のトークショーを行いました。

**竹内** 単にフェアトレード商品を買ったり食べたりしてもらっただけでなく、フェアトレードを通して本質的なことを上手にイベントにして多くの方に伝えていきますね。

**榎本** グローバルな視点と足元の地域づくりがどうつながっているか、どうやって社会を変えるのかを知ってもらおうという思



湧水を利用した洗い場を海外の研修生に案内



岐阜県垂井町で町民による地域づくりに取り組んでいる泉京・垂井の榎本さん。同じ岐阜県の高山市で地域づくりにかかわっているソムニードの専務理事でもある竹内ゆみ子が、お話を伺いました。

竹内 ゆみ子



榎本 淳さん

いもあります。来場される方も出店する団体も最初は垂井町以外の方が多かったのですが、今年は地元の方が多く来られ、地元の団体の方にも興味を持っていただけましたね。

また「にぎわい六斎市」というイベントろくさいいちを毎月第3日曜日に行っています。中山道の2つの施設で、野菜や食品、雑貨などを販売したり、音楽やライブペイント、講演やワークショップなどを開いています。地産地消をテーマに、地元の方が気軽に集まりサロンを作ろうというものです。以前は地元の団体がやっていたのですが、私たちが運営を引き受けたことで、これまでと異なる層の出店者や来場者が集まるようになりました。6月は塩ビ管を使ってディジュリドゥというオーストラリア先住民の民族楽器の笛を作るワークショップを行いました。

最初は地元の方は「泉京・垂井はいいどんどんな団体だろう」という目で見えて

たのですが、少しずつ変わってきているようです。そういう方たちからどうやって信頼してもらえるかというのが重要なポイントです。

**竹内** 地域の資源を再評価する。その為にまちづくりには、いわゆる「よそ者」が必要ですね。

**榎本** 垂井の地元の方は、中山道垂井宿という魅力に対して自信をなくしているのではないのでしょうか。私たちの活動が、中山道を残したいという思いを形にして、自分たちの町の良さを次世代に残していくきっかけのひとつになれば嬉しいですね。

## 行政や地域との かかわり

**竹内** 県庁所在地ではない小さな市町村では、地域づくりのNPO/NGOはそれほど多くありません。そのため泉京・垂井さんの取り組みはとても貴重なものと思

います。行政とのかかわりはどうですか。

**榎本** まちづくり条例に基づいてまちづくりセンターやまちづくり協議会などのシステムは立ち上がったのですが、なかなか機能していません。市民活動への助成制度もなく、新しく活動を始めた団体が自立した活動を継続する方法が限られています。

様々な地域活動には、地区割りがなじむ活動とテーマ割りがなじむ活動

がありますが、それがうまく使い分けられていないように感じます。また、垂井町は地理的に滋賀県に近いので、西の方も向きながら連携して活動をしています。これまでの、岐阜県とか東海三県という枠組みから抜け出した活動をしたいと思っています。

**竹内** そういうボーダーレスの考え方がNPO/NGOならではのですね。意識的に仕掛けているのがおもしろいです。ソムニードでも富山県は高山市に近くて同じ流域なので、富山の方たちとの交流も意識しています。今後はどういう活動に向かいたいのですか？

**榎本** やはり、地域づくりという原点を忘れずに、流域単位やグローバルな視点を加えた活動をしていきたいです。そしてNPOならではの考え方を行政に対して提案し、政策に反映するなど共通理解を深めながら協働でまちづくりを進めていきたいですね。

**竹内** どうもありがとうございました。

(担当:丹羽)



第4回フェアトレード日垂井

### 団体概要

#### 特定非営利活動法人 泉京・垂井

〒503-2121 岐阜県不破郡垂井町  
1791番地1 (JR垂井駅から徒歩3分)  
TEL: 0584-23-3010  
FAX: 0584-84-8767  
E-mail: info@sento-tarui.org  
ホームページ:  
<http://sento-tarui.blogspot.jp/>  
ブログ:  
<http://sento-tarui-blog.cocolog-nifty.com/blog/>  
開所日: 月～土曜日(日曜日休み)  
開所時間: 9時30分～17時30分